



中国のアフリカ人ビジネスマン

三島 禎子

(みしま ていこ)

本館民族社会研究部

経済都市グアンジヨウ

中国のグアンジヨウに行ってきた。香港から特急で二時間。列車は香港の華やかさやビジネスマンの多忙な雰囲気に乗せたまま、途切れることのない街並みを通りすぎて、いつしか大陸側に着いた。グアンジヨウは広州と書く。秦漢時代から海外貿易の中枢として栄えた街であり、唐代には海のシルクロードの起点となったという。また広東華僑とよばれる人びとが、世界をつなぐネットワークを作り、大きな資本をもっていることも知られている。二〇〇〇年を超えてなお、グアンジヨウは世界中のビジネスマンの関心を集める経済都市である。

中国へチャンスを求めて

この街にアフリカの商人が集まっている。その数は二三年前からうなぎのぼりに増え、現在では一〇〇〇人以上が滞在していると思われる。その多くは、ソニンケと自称する民族集団に属する人びとである。千数百年を通じて商人として名高い歴史をもつソニンケの人びとであるから、今日、遠いアフリカ大陸からこのようなアジアの経済都市にやってくるのは決して不思議なことではない。

彼らは、アフリカの人びとが毎日の生活で使う品々を買いつけに来る。衣類や雑貨などの必需品から、建築資材、電化製品、バイクや自転車に至るまで、さまざまな工業製品をアフリカの国々へ送るのである。中国を初め、東南アジ

ア諸国からアフリカへの輸出は年々増えている。とりわけ中国の伸びは著しく、ソニンケ商人の多くがマリ出身であることから、両国の経済交流は活発化している。

さてグアンジヨウの中心部の一角に、アフリカ人ビジネスマンが集まる場所がある。三〇階建てのあるオフィスビル



グアンジヨウの一隅を歩くアフリカ人商人たち

のほとんどが、彼らの事務所となっている。ここはどこだろうと見間違っただけで、エレベータのなかではソニンケ語が飛び交っている。事務所には中国の工場から取り寄せた製品のサンプルが置いてあり、事務所をもつ長期滞在の商人は、アフリカから買いつけにやってくる同邦の商人から中国の工場や卸問屋との仲介をしたり、輸出代行をおこなったりする。グアンジヨウがアフリカの商人の関心を引き始めたのは、二三年前からにすぎないが、彼らは英語や広東語を巧みに操って中国人と交渉するのである。

アフリカから来る商人は、中国にとって歓迎すべき客である。十分なお金をもつてやってくる。中国製品を購入し、短期的なサイクルで出入国を繰り返す。働いて資金をえることを目的とする一般の外国人出稼ぎ労働者と違って、中国人の雇用を圧迫もしなければ、住民とのトラブルもなく、国家財政の負担にもならない。しかし彼らとして、初めから大陸から大陸へコンテナを動かすような大商人ではない。タバコを一本売り買いうることから出発した人ばかりである。外国に経済チャンスを探して移動する人びとの個々人の人生には、波乱万丈のストーリーがある。

同じ人間が、あるときには「困った移民であつたり、あるときには「歓迎すべき移民」であつたりする。各国の選択的な移民受け入れ政策に左右されることなく、またそれに依存することなく、彼らは家族や社会のなかでの立身出世を果たすために、それぞれの達成すべき目標に向かって歩んでいるように見えた。

アフリカ女性のカツラ用人工毛髪や衣類、雑貨などのサンプルを置くアフリカ人商人の事務所

